

自治 温故創新  
考える  
思いやる  
やりぬく

# まごころ

学校便り 11月号  
令和4年11月2日  
西東京市立田無第三中学校

## 合唱コンクールを終えて

文化的行事委員会(合唱コンクール担当) 刀禰 孝司

10月21日、文華女子高等学校のホールにて、三中では3年ぶりとなる合唱コンクールが行われました。三中に歌声が、それも気迫ある歌声が戻ってきました。



思えばこの3年間、音楽の教員として物足りなさを感じてきました。歌を一切歌えない時期が数か月続き、その後歌える状況になっても大きな声では歌えない、歌を忘れたカナリアのような状況でした。昨年、一昨年と「合唱コンクールができるかもしれない?」と、各学年とも課題曲の練習はしましたが、結局中止となり、生徒ともども悔しい思いをしました。

て練習を積み重ねました。まずは「課題曲」の音取りから始めましたが、合唱コンクールのイメージがない中での練習で、生徒たちも真面目に取り組んではいるものの、今一つ気持ちが入らない状況でした。



しかし、今年度は夏休み前に合唱コンクール実施が決まり、2学期から本格的に準備が始まりました。合唱コンクールまで7週間という限られた期間で仕上げるため、生徒とともに必死になって練習を積み重ねました。まずは「課題曲」の音取りから始めましたが、合唱コンクールのイメージがない中での練習で、生徒たちも真面目に取り組んではいるものの、今一つ気持ちが入らない状況でした。週に1~2回の授業の中で、なかなか正確に自分のパートを覚えきれず、全体で合わせても合唱になりませんでした。「自由曲」の練習も始まり、あっという間に合唱コンクールまで一か月を切ってしまいました。このままで合唱が仕上がるだろうか、と大きな不安を抱える中10月からクラス練習が始まりました。

を付けるようになってきました。音楽の授業でも素直にアドバイスに応じてくれ、クレッシュェンドがうまくいくとみんなうれしそうに笑顔になりました。どんどん気持ちが入ってきて、どのクラスの合唱も目を見張るほどの上達ぶりでした。

そして当日。緊張の中もしっかり歌おうとする意気込みを感じました。10分ほどのステージのために、何週間もかけて仲間と創り上げてきた合唱。どのクラスもそれぞれの思いが一気に爆発したように、力強い歌声がステージに響き渡りました。音楽の授業やクラス練習を通し、この日を迎えるまでの各クラスの苦労が分かっているだけに、熱い思いで歌声に聞き入っていました。感動の連続でした。さすがに三中生!日頃から落ち着いた学校生活を送り、一生懸命になり切れる、三中生の真髄を見た思いでした。

3年ぶりの合唱コンクールを実施するにあたり、各クラスの実行委員をはじめ指揮者、伴奏者、パートリーダー、サブリーダーなど多くの生徒の活躍がありました。それぞれが責任をもちクラスをリードしてくれました。特に実行委員は「何とか合唱コンク



ールを成功させたい！」との思いが強く、クラスではもちろんのこと、準備段階から当日に至るまで大いに力を発揮してくれました。

三中生全員で創り上げた3年ぶりの合唱コンクールが、清々しい気持ちの中、成功裏に幕を閉じました。中学校生活の思い出として一人一人の胸に刻まれることを願うとともに、今年の合唱を土台に、来年以降もさらに発展した合唱が響き渡ることを期待しています。

ありがとうございました。

## 開校60周年記念式典開催さる



10月28日さわやかな秋晴れの中、開校60周年記念式典が行われました。

市長・教育長・市議会代表、小中校長会代表、学校運営連絡協議会・PTA役員の皆様を、御来賓としてお迎えしての式典は、コロナ対応の中で、教職員・3年生だけの参加となりましたが、厳粛な式となりました。

式典終了後には、御来賓の皆様より、3年生の式典中の所作や態度、生徒代表挨拶の立派さについて、また、学校周辺で式典に参加せず下校した1・2年生から受けた挨拶の好印象について、お褒めの言葉をいただきました。おかげさまで式典が無事に終了した安堵感に、生徒が認められた喜びを重ねることができました。

式典では、本校の校章にデザインされた「三葉のクヌギの葉」から、当代の三中での学校生活を、若葉茂らせながら、横へ広げていく枝々に例え、その枝々を支える、太く幹を、三中の伝統と例えました。そして、この60周年の時においては、枝を支える伝統という太い幹に思いをはせようと、お話ししました。以下に、式辞全文をご紹介します。

### 式 辞

本校はまず、昭和36年4月1日に、田無小学校の一角に、田無中学校分校として、産声を上げました。そして、翌年、当地に移転し、東京都北多摩郡田無町立田無第三中学校として、歩みを始めることとなります。開校当時の学校関係者の、三中創造への気概は、「開拓魂」という言葉に収斂され、「知・情・意」の調和がとれた教育を目指す、本校伝統の礎を築きました。昭和43年には体育館、十周年となる同47年にはプール・西館が完成し、現在の本校の陣容が整いました。

以来、半世紀。本校は、今年度 開校60周年を迎えました。

その時々三中での学びを得た卒業生は、11000名を超え、様々な場所で活躍しています。

今年度、校舎一階に、開校以来の体育祭を振り返る写真資料を掲示しましたが、健康診断を終えた校医のお一方が、「私、この写真の子を知っていますよ。」とお声がけくださいました。そして、自分がその代の卒業生であることを告げられました。

また、本日御祝辞をいただく、市議会副議長 森しんいち先生も、本校の御卒業と伺っております。

さらに、直近の例でいえば、今、私が着用している礼服のクリーニングをお願いしたお店の方も、御自分と、そのお子さんが、本校の卒業生でした。しかも、お子さんの在学中は、PTA役員として、本校のために御尽力をいただいたそうです。楽しそうに、当時の思い出をお話しになるその姿を見て、当代の校長として、幸せな気持ちに満たされました。

本校の校章は、武蔵野を代表する「クヌギ」の三葉の若葉が図案化されています。三枚の葉は、「知・情・意」、あるいは「知・徳・体」、そして、「考える・思いやる・やりぬく」と、三中生の進

むべき道をさし示してきました。

武蔵野の大地に、陽の光を全身に受け、若葉を茂らせ、枝を広げて、やがて結実の時を迎える。一枚一枚の若葉は生徒達に例えられ、枝々は今に生きる中学校生活そのものであります。そして、その充実の学校生活を、武蔵野の大地に深く根を下ろし、空に向かい伸びていく太くたくましい幹が支えます。年輪を刻むその幹は、まさに伝統の三中の姿です。

今、本校は開校60周年を迎えています。未だ、コロナ感染症対応の中で、思うに任せぬ我慢の日々が続いてはいますが、そんな状況にあっても、できることに全力で打ち込み、改めて「温かく・活気溢れる」学校づくりに取り組んでいます。

先週行われた合唱コンクールでも、幾多の困難を乗り越えて、生徒たちは素晴らしい歌声を響かせました。何事にも前向きに取り組んでいく三中の良さをそのままに、どうすれば成長するのか、皆で考え、仲間を思いやり、学び合い、励まし合いながら、合唱をやりきった生徒たちの姿を誇りに思います。

そして、コロナ対応という未曾有の事態にあっても、揺らぐことなく日々の学校生活を積み重ねられるのも、また「温かく・活気溢れる」理想の三中を目指せるのも、先輩方が、一年一年育てていった、三中の伝統という強く太い幹によって支えられていることに思い至りました。

同じ時代に、同じ場所で仲間と磨き合いながら学校生活を送る、「横の広がり」のありがたさとともに、先輩方の努力や成果を伝統の力として受け取る「縦のつながり」のありがたさも、開校60周年というこの機会に強く意識すべきと考えます。

コロナウイルスをきっかけしたこの時代の大変化が、教育に福音をもたらすのか、そうでないのか、その判断は後の時代に委ねるしかありません。当代の我々は、目の前の生徒のため、伝統を守り育て、さらに発展させていくという、先人の歩みを、たゆみなく進めていくのみです。これからも、教職員一丸となって、生徒達に寄り添いながら、生徒主体の学校づくり、地域の誇りとなる学校づくりにより一層精進して参ります。

西東京市立田無第三中学校  
第18代校長 東山 信彦

## ○三中生の活躍

10月29日30日両日に、芝久保公民館で、芝久保公民館まつりが行われました。本校、美術部・書道部が参加し、その作品が、展示されました。

また、ボランティアとして8名の生徒が参加し、お祭りの係員として活躍しました。



**卓球部**

第11ブロック新人大会

都大会出場(12月26日) M. K M. Y M. A

西東京市内大会

女子シングルス

第1位 M. A 第3位 M. Y

**男子バスケットボール部**

西東京市内大会兼新人戦シード権大会

優勝 田無三中 45対 青嵐中 44 《ラスト5秒で逆転勝利!》

田無三中 52対 柳沢中 26

**女子バスケットボール部**

西東京市内大会兼新人戦シード権大会

第4位 田無三中 35対 田無四中 12

田無三中 23対 保谷中 7

**サッカー部**

第11ブロック新人大会

Bリーグ第3位

西東京市内大会

準優勝 田無三中 0対 ひばり・柳沢・田無四 0 《PK戦で惜敗》

**野球部**

第11ブロック新人大会

第3位 田無三中 2対武蔵村山五中 3 《延長10回惜敗》

**陸上部**

西東京市総合体育大会陸上競技大会

男子中学(個人)2年 100m 第1位 O. S

男子中学(団体)共通 4×100mR 第2位 O. S・K. T・K. Y・K. H

**北多摩中学校読書感想文コンクール**

入選《都コンクールへ》

T. S

佳作

T. A K. M